

# 1 自己評価及び外部評価結果

(別)

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2472700398		
法人名	高砂ライフケア株式会社		
事業所名	グループホーム ゆう		
所在地	三重県多気郡明和町斎宮3816-24		
自己評価作成日	令和5年8月23日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;ligvsvocd=2472700398-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;ligvsvocd=2472700398-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和5年9月13日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ゆうの理念に基づきご自宅に居たときと同じようにアットホームで安心した生活をしてもらえるように心がけています。  
感謝の気持ちの (thank you)  
思いやりの (fou you)  
そしてあなたらしくの (you)  
誰にもない自分らしさを大切にさせていただき、日々の生活を豊かに感じていただけるようにスタッフ一同努めてまいります。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所近くに、明和町役場や学校、消防署など公共施設が所在している。開設して19年経過し、その間、隣に同一法人の1ユニットのグループホーム（きの家）が作られている。グループホームは2階建ての建物で1階、2階にユニットが分かれている。介護度が高い方は1階、比較的に低い方が2階にと住み分けされている。周りに新しい住宅が建ち、農地も広がりゆったりとした環境下にある。新型コロナウイルス感染症は本年5月、5類に移行したが、長期間コロナ禍が続き、制限した生活が続いて、今なお余波は残っている。総務部を中心に”ゆう”、隣接の”きの家”が連携し協力して同じ目線で、理念に基づいたあなたらしい生活支援に努めている。

## V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆうの理念（友・優・裕・邑）を掲げて日ごろから感謝の気持ちを共有している。	いろいろな思いを込めた理念である。利用者はおお客様であることを常に心がけ、利用者本位の立場に立った介護を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で全てにおいて交流が困難になり地域との距離が開いたままになっている。5類に移行したので少しずつ地域との距離を縮められるよう努めたい。	コロナ禍で地域との交流はできなかったが、散歩中に出会った方と挨拶を交わしている。コロナ禍以前に事業所で開催していた納涼祭のようなイベントをぜひ再開したい意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部との接触が困難な為行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍前は対面にて意見交流が出来たが現在は2か月に1度書面送付にて役場に報告のみとなっている。	コロナ禍で開催が出来なかったため、事業所の状況報告を記した文書を2か月毎に作成して、行政に報告をした。	運営推進会議は、地域、家族とのつながりを継続するためにも事業所にとって大事なことである。早急に運営推進会議の開催を目指した取り組みを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当（総務）を通じて行っている。助言をいただいた際には積極的に取り組み実践に努めている。	行政との窓口は総務が担当している。行政、社協等とも連携、協力体制がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会により検討している。	現在やむなく安全ベルトを装着し、夜間ミトン装着の方がいる。家族の同意を得て、記録をしている。身体拘束廃止委員会を開催し、法人内で拘束についての研修を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	5大虐待に気を付けてグレーゾーン・不適切ケアについても職員同士で話し合い支援を行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1度、周知の機会を設けている。担当者が必要時には行政と相談して解決に取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分説明を行い介護保険法改正における単位数の変更及び処遇改善加算等変更がある場合は書面にて了承いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話等で現状報告を行うとともに、家族様からの要望・意見を聞きサービスに反映できるように努めている。	コロナ禍中は面会を中止し制限していたが、現在は時間を決めて（午前、午後30分）玄関での面会をしている。今は頻繁に面会がある。家族へは電話で連絡し、ホーム便りを家族へ送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者ミーティングの内容をフロアミーティングにて報告し、個々の意見や提案を聞き取り反映させている。	管理者は現場での業務に携わっており、職員からの意見はいつも聞いている。フロア職員ミーティングで出た意見は管理者会議で出され検討がされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれの勤務希望に沿って働いていただいている。悩みや相談はできるだけその時その時に解決できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT及びネットを活用した社内研修・外部研修を積極的に行うことで職員1人1人がスキルアップを出来るように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政主催の連携会議に担当者が参加し交流を通じて向上に努めています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に実調で家具の配置・アセスメントで本人のご要望に沿えるよう安全で安心した居室空間を作れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时・実調・契約時に家族に対してもアセスメントを実施し家族の支援にも力を入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントや実調で本人や家族両方から要望を伺ったり、在宅ケアマネにも意見を伺ったりしながら現在どのような支援が必要か見極めるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごしていく中で入居者にも出来る範囲でやりがいをもっていただく為に、職員と一緒に洗濯やおやつ作り等工夫しながら支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段の会話から家族の話や要望などを聞き取り家族に電話や面会時に報告させていただきより良いサービス提供を行えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスが5類に分類され規制緩和により15分程度感染予防をしたうえで面会していただいている。	利用者が入所するまで住んでいた近所の方が訪ねてくれたり、身内の方の手紙が来るなどあった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ明和町民であり地域同士なので職員が話の間に入り関係を構築している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も何かあれば相談やフォローをさせていただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の話を傾聴する事を心がけている。意思表示が困難な方に対しては意思表示が可能となときに収集した情報が活かしている。	十人十色、利用者はひとり一人思いが違い、普段から寄り添い傾聴に努めている。毎日の様子から、表情、動作、目の動きなどから思いを汲み取っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・在宅時のケアマネジャーの情報を元に把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状態・心身状態をよく観察し職員同士で情報共有し現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の観察や本人の要望などをチーム全体で把握し、家族に報告し意見等頂いている。その後カンファレンスを行い支援内容をまとめ、家族に報告後計画書を作成している。	入居時にアセスメントで生活歴などを把握し、介護計画を立てている。職員会議でカンファレンスをして、目標期間を半年にしてモニタリングしている。変化があれば、その都度の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中・夜間ともに観察記録に記録したものを支援経過に転記し、申し送りとともに職員が情報共有している。記録を元に介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な範囲で支援できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍が収束して間もない為、今後利用者の希望に沿った支援を可能な限り行えるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週で定期往診に来ていただいている。医療連携にて往診とは別に訪問看護・訪問歯科にも協力していただいている。	利用者全員が協力医療機関の医師が主治医になっている。協力医療機関と連携した訪問看護と週ごとに訪問診療があり、適切なケアによりしっかりと健康管理がされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隔週で往診と別に訪問看護に来ていただいている結果を主治医に報告をしていただき適切かつ迅速に対応できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の情報提供、共有がスムーズに出来るよう看護サマリーを準備している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアを家族が希望されたときは主治医の指示の元訪問介護を導入し医療体制を整えている。	本人、家族の要望があれば看取りをする方針である。訪問診療を定期的に受けており、状態の変化があればいつでも医師、家族と相談し対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って対応できるように話し合い理解できるように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い災害時の対応が出来るように努めています。	毎年3月、9月に火災を想定した防災訓練を実施している。事業所内での避難場所を決めて1階、2階で待機して救助を待つ。備蓄は水、食料を用意している。事業所近くに消防署があることが心強く安心である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の思いや意向・行動・表情から精神状態を理解するよう心掛け、安心して落ち着いていただけるよう声かけ、態度で支援している。	呼称は”チャン”で呼ばないように徹底している。静けさを好む人には畳敷きの所で過ごしてもらったり、皆と一緒にいたい方にはリビングで過ごしてもらおうなど個々の生活を守る支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人1人の思いが違うため傾聴する事でそれぞれの思いや希望を表せれるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念にあるようにその人らしい時間を大切に希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の意思を尊重しその人らしい暮らしが出来るよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じて準備や下膳をしていたいでいます。	食事はできたものがレトルトで業者から配達され湯煎して提供している。2社の業者で曜日ごとに変わる。誕生日は、好きなものをあらかじめ聞いて、おやつなどで実現して喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じた食事を提供している。栄養量が少ない場合は家族に相談、協力を仰ぎ栄養補助食等を用意させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアをしていただいている。訪問歯科と連携を取り家族了承の元必要な方には往診に来ていただいています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	観察表に記載した記録と職員間の申し送りを元に排泄パターンを周知し自立に向けた支援に努めています。	1階の利用者は相当重度化が進み、トイレでの排泄は困難でリハビリパンツ、パットなどを使用して排泄介助をしている。2階の利用者はパットなど使いながらもトイレでの排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や水分摂取・適度な運動をすることにより便秘予防に努めている。それでも便秘改善が必要な方は主治医に相談し下剤等を処方していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2、3回は入浴日を設けている。	入浴は週2～3回実施している。1階は重度者が多く、機械浴の風呂に替えた浴槽で入浴をしている。2階は家庭的な個浴の浴槽になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅に居たときと同じように安心していつでも休息できる環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が服薬の周知に努めている。わからない場合は処方箋の確認、連携している薬局に確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴に合わせた支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状コロナ5類に移行されたが、人込みが出来るような場所には行けていない。散歩は日常的に取り組んでいる。	コロナ禍であっても散歩はできるだけ実施してきた。外出はコロナ感染防止のため、出かけることは自粛してきた。コロナ感染症は5類に移行し、今後様子をみながら外出支援の対応をしていく意向である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な方には個人で管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	字が書けない方や支援が必要な方には職員が1対1で支援している。希望があれば電話や手紙も支援させて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に合わせた配置・空間づくりをするよう心掛けて支援している。	利用者は、食堂やリビング、畳の間と思いきいのところで過ごせるようになっている。2階は居室の周りがバルコニーになっている。室温、空調、明るさもほどよく、壁には絵画が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファや椅子を置き安全に配慮し、心地よい空間を作るよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ自宅に居る時と同じよう配置をし、希望があれば家具や家電を持参して頂いている。	タンス、テレビ、椅子、机など持ち込まれて自分らしい居室になっている。各居室にクローゼットが設備され収納ができるので整理整頓がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮しトイレに表札を付けて場所が分かるようにしています。		